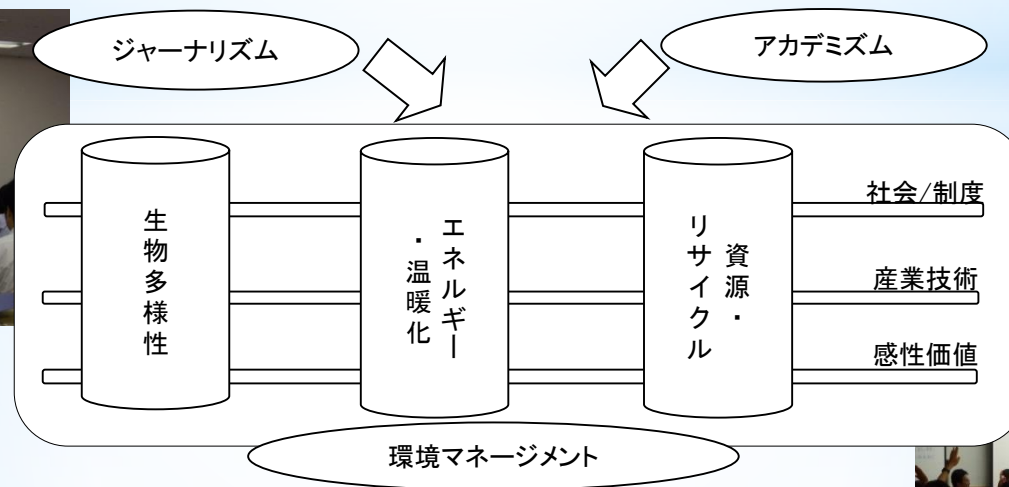


# 平成30年度 講義テーマおよび講師

あいち環境塾では、環境の含む範囲の広さ、多様な考え方があることを理解することが重要と考えております。

そのため、講義は、エネルギー、廃棄物処理および生物多様性を主軸とし、経済、技術、環境マネジメントによる解決への取り組みを横軸にしてカリキュラムを組み、感性価値、市民目線での考え方、現在の世の中の動きに疑問を持つ考え方等をその分野で活躍している方々にお話しをしていただきます。

各講義の後には、講師と直接意見交換出来る時間も設けています。



# ◇主な講師陣



## 講義テーマ：廃棄物処理の課題と展望

生活環境の保全と公衆衛生の向上を目的に廃棄物処理が行われている。処理のために、焼却施設や最終処分場など施設が必要となる。廃棄物処理の改善の歴史、法整備の歴史から、現在の3Rの推進と適正処理の確保の廃棄物処理の現状、課題を解説する。容器包装リサイクル法、食品リサイクル法から小型家電リサイクル法までを解説しながら、今後の展望について考えてみたい。

田中 勝

(公財)廃棄物・3R研究財団 理事長、岡山大学 名誉教授

## 講義テーマ：日本のエネルギー戦略と今後

パリ協定を受け、我が国や米国の関連政策の最新状況を述べる。加えて、再生可能エネルギーに対する光と影、脱炭素型エネルギーシステムの実現に向けた動き、化石燃料の高度利用に対する最新の政策動向等について解説する。電力・ガス小売りの全面自由化に代表されるようなエネルギーシステム改革は、産業界の競争力強化に繋がるだろう。21世紀の我が国の成長エンジンは、脱炭素エコノミーをいち早く実現することにある。実現方策をともに考えたい。



柏木 孝夫

東京工業大学 特命教授・名誉教授

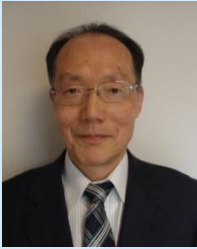
## 講義テーマ：国際的な環境問題にどう対処するか

地球温暖化をはじめとする国際的な環境問題の解決を目指して、国際社会は、様々な努力を積み重ねています。国際条約が締結され、国際的な環境問題の解決に協力するための枠組みがつけられ、各国の環境法や環境政策に少なからぬ影響を与えています。国際社会がこうした国際的な環境問題にいかに対処してきたか、どうしたらより効果的に対処できるか、日本の環境法や環境政策にどのような影響を与えているかを皆さんとともに考えます。



高村 ゆかり

名古屋大学 大学院環境学研究所 教授



浦野 紘平  
横浜国立大学 名誉教授

### 講義テーマ：化学物質の役割及び化学物質による被害事例とリスク管理

化学物質の急速な普及によって、現在の私たちの生活は、便利で快適になった一方で、人類が経験したことのない「化学物質の海を泳いでいるような生活」になっている。化学物質による被害事例にはどのようなものがあるのか、化学物質の有害性はどのように評価されているのか、そのリスクはどのように管理されているのかなどを紹介し、今後どうすべきかを考えたい。

### 講義テーマ：生物多様性と生態系サービス

生物多様性の問題は絶滅危惧種や外来種の問題だけと思われがちです。しかし、生物多様性は私たちの毎日の生活に欠くことのできない恵み(生態系サービス)をもたらしています。生物多様性が生み出す生態系サービスをどのように賢く利用するかは、私たちの社会の持続可能性を大きく左右します。こうした側面からとらえることにより、生物多様性の利用と保全の意義、さまざまな立場でできること、行うべきことを考えてみます。



中静 透  
大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所  
プログラム・ディレクター 特任教授



栗山 浩一  
京都大学 大学院農学研究科 教授

### 講義テーマ：自然の恵みはタダなのか？

きれいな空気、水、美しい景観など、私たちは自然から様々な利益を得ています。しかし、自然の恵みの大半は価格が存在しないため、守っても利益が得られません。自然を守るには、自然の恵みがタダではないことを示すことが重要です。そこで、自然の恵みの価値を金銭単位で評価する手法として仮想評価法(CVM)が注目されています。自然の価値を評価する方法を紹介するとともに、自然の価値と保全のあり方について考えます。



尾崎 弘之  
神戸大学 大学院科学技術イノベーション研究科 教授

### 講義テーマ：環境分野の新規事業(ベンチャー)を創造する

環境省の調査によると、国内環境産業の市場規模は、104.3兆円に上り、249万人もの雇用を生んでいます(いずれも2015年。環境省による)。特筆されるのは、「地球温暖化対策」関連の市場は過去10年間で4倍以上に急成長していることです。低成長に苦しむ日本経済にとって、再生可能エネルギー、低燃費自動車、省エネ、蓄電池などは、大きなポテンシャルを持つといえます。グローバル市場においても、環境・エネルギーのベンチャーはITやバイオと並ぶ重要な分野へと成長しつつあります。新しい事業の開拓には、ベンチャービジネスの仕組みを知る必要があります。起業家の視点で、どのように環境ビジネスを推進するか、活発な議論を期待します。

### 講義テーマ：環境ってなんだろう？—メディアから

中日農業賞の審査を終えて考えた。様変わりが加速した。つい最近まで「環境配慮」は「加点」の対象だった。だが今や「基礎点」にもなっていない。環境配慮がなければノミネートすらできそうにない。企業にとっても「環境」はもはや社会貢献などではなく、生き残りをかけた本業だ。自治体にとっては地域づくりの基盤である。公害から環境へ、そして持続可能性へと時代は走る。将来世代が困らないよう、今何をなすべきか、皆さんと一緒に考えたい。



飯尾 歩  
中日新聞社 論説委員